

技術協力活用型・
新興国市場開拓事業
(研修・専門家派遣事業)

2022年11月

プログラム&プロジェクトマネジメント研修コース

**The Training Program on Program & Project Management
[PPTP]**

2023年3月1日～3月13日

1. コース開設の背景：

一般財団法人海外産業人材育成協会（AOTS）は、主に海外の産業人材を対象とした研修及び専門家派遣等の技術協力を推進する人材育成機関です。これらの事業を通じて、日本と海外諸国相互の経済発展に貢献するとともに、友好関係の増進にも寄与します。

AOTS は 1959 年（昭和 34 年）8 月に日本で最初の民間による技術協力機関として通商産業省（現・経済産業省）の認可を受け設立され、これまでに日本で実施した研修には、2021 年度（令和 3 年度）までに世界 198 の国と地域から延べ 200,000 人余りが参加したほか、海外で実施した研修にも延べ 230,000 人余りが参加しています。

AOTS は帰国後の参加者や開発途上諸国の産業界からの要望に基づき、様々な研修コースの企画、開発に努めています。

プログラム&プロジェクトマネジメント（注 1）研修（PPTP）は、AOTS が実施する管理研修の一つで、日本の P2M[®]（注 2）に基づくプロジェクトマネジメントの体系と手法を研修参加者に習得させるために企画されたものです。

注 1）プログラム&プロジェクトマネジメント----- プログラムマネジメントとは、プログラムの構想、基本計画、実施管理などの一連のプロセスを指し、グリーンエコノミー、技術革新、DX、日本政府が提唱する Society 5.0（日本政府提唱）など、外部環境の変化に適応し、事業の拡大・成長を目指す組織の戦略実現の一環として位置づけられます。また、プログラムマネジメントとは、そのような戦略の特定の部分を実現するためのプロジェクトの集まりで、全体的なプログラムのミッションのもとで互いに有機的につながっているものです。

プロジェクトマネジメントとは、土地・社会インフラのエンジニアリングや建設、石油・ガスプラント、生産設備、ICT システム、新製品開発、気候変動に対応するサステナビリティなど、プロジェクトの状況（ミッション主導、時間・資源・予算の制約）に応じてユニークで新しい価値を創造する一連のマネジメントプロセスです。プロジェクトは、単独で開始されることもあれば（個別プロジェクト）、プログラムの不可欠な部分として開始されることもあります。

注 2）P2M[®]----- P2M[®]は一般財団法人エンジニアリング協会が日本の経済産業省の委託事業として 3 年間のリサーチを経て 2001 年に発行した「プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック」のことで、2002 年より日本プロジェクトマネジメント協会（PMAJ）が普及を担当しています。もともと P2M は日本の企業、団体、行政等のイノベーションによる競争力強化を支援するためのツールとなることを期待され開発されたものであり、品質、予算、納期等を守っていかにして 1 つのプロジェクトを成功させるかということだけではなく、複数のプロジェクトで構成されるプログラムを統合し、共通のプログラムミッションのもと、さまざまな経営学や日本の産業の強みを知的に融合させ、より高度で広い視野から全体最適を追求し、イノベーション、高付加価値、サステナビリティを構想・実現するための知の構築物であるともいえます。P2M には英語版があり、フランス、ウクライナ、ロシア、フィリピン、セネガル、バングラデシュを含む約 25 カ国で教えられ、実践されています。

2. 対象国：

対象国・地域一覧をご確認ください。

3. 参加者の人数：

20 名

4. 参加資格：

以下の資格を有することが必要です。

- (1) 原則として、開発途上国の企業の経営者、上級管理者、或いはプロジェクトをマネジメントする立場にある管理職、またはプロジェクト・リーダー。プロジェクトマネジメントを指導する立場にある産業振興団体・業界団体の管理者、職員も対象とする。
 - (2) 原則として、年齢は20歳以上の方
 - (3) 大学卒またはこれに準ずる職歴を有する方
 - (4) 英語による聴講、討論、発表、報告書作成ができる方
 - (5) 心身健康な方
 - (6) 開発途上国または地域に居住の方
 - (7) 学生でない方、軍に籍をおいていない方
 - (8) 過去に低炭素技術を輸出するための人材育成支援事業及び技術協力活用型・新興国市場開拓事業（研修・専門家派遣事業）の研修制度で来日した方は、帰国後半年（183日）以内に開始されるコースに応募することはできません。
- * 勤務先が日系企業、日系企業の取引先企業、今後日系企業との取引を予定あるいは希望している企業の方が望ましい。（日系企業や日系企業の取引先企業、今後日系企業との取引を予定あるいは希望している企業からお申込みいただいた場合、選考時の優先順位が高くなります。）

注意：

- (1) コース参加者は、研修コースの全てのカリキュラムに参加する必要があります。
- (2) 日本へ家族を同伴することはできません。
- (3) 参加者はAOTSに対してプログラムの追加を要望したり、自身でプログラムを計画したりすることはできません。このコースの終了後速やかに帰国しなくてはなりません。ただし、日本の受入企業がこのコースの終了後、実地研修を計画し、AOTSの承認を受けた場合はこの限りではありません。
- (4) 日本以外の先進国資本が入った企業からお申込みいただいた場合は、選考時の優先順位が低くなります。
- (5) 本コースは、主に民間企業・団体に勤務する方を対象としているため、中央・地方政府機関に所属する方は参加できません。
- (6) 申し込み人数が定員を上回る場合は、日本の受入企業または海外の派遣企業1社当たりの参加人数を制限させていただくことがあります。

5. 応募方法：

日本国内の法人（親会社等）を通じて申し込む場合と、海外の現地法人が直接AOTSに申し込む場合では、応募方法、提出書類等が異なりますので、ご注意ください。

- (1) 管理研修参加後に実地研修を希望する場合、受入企業となる日本国内の法人（親会社等）を通じて申し込む必要があります。
- (2) 日本国内の法人を通じて申し込む場合、渡航費は対象となりません。但しアフリカからの参加者を受入れる場合のみ渡航費を対象とします。

（日本国内の法人を通じてのお申込みの場合）

- (1) 仮申込み：お電話、またはE-mailにて検討されている研修の概要（研修対象者の属性、実地研修の有無等）をご連絡ください。そのうえで、以下の応募書類を2022年12月22日（木）までに、AOTS研修・派遣業務グループ（14. お問い合わせご参照）までご提出ください。

1. 研修申込書（概要） 2. 研修生個人記録並びに研修契約に関する申告書 3. 事前研修レポート

- (2) 本申込み：仮申込み受理の連絡を受けた後、本申込みに必要な書類の準備、段取りなどについて、ご案内いたします。

※ご不明点等ありましたら研修・派遣業務グループまでお問い合わせください。（14. お問い合わせご参照）

※上記AOTS所定様式は当協会ホームページからダウンロードできます。

【日本語】<https://www.aots.jp/hrd/technology-transfer/download/#kanri-shinkokoku>

（海外の現地法人からAOTSに直接お申込みの場合）

AOTS海外協力機関を通して、以下の応募書類一式をPDF・エクセル両方の形式で、2022年12月22日（木）までにAOTS事業統括部に到着するよう提出してください。

応募書類の提出期限は、各団体によって異なりますので、AOTS事業統括部（14. お問い合わせご参照）

にお問合せください。

お申込者にはAOTS 海外協力機関による面接をさせていただきます。

- (1) 研修申込書、研修生個人記録申告書（AOTS 所定様式：手書きの記入は避けてください）
※PDF・エクセル両方のソフトコピーを提出
- (2) 日本企業との取引および日本市場への参入に関する調査票 ※エクセル
- (3) 問診書（AOTS 所定様式：手書きの記入は避けてください） ※PDF
- (4) 研修生個人情報取り扱いについて（AOTS 所定様式） ※PDF
- (5) 海外旅行保険承諾書（AOTS 所定様式） ※PDF
- (6) 研修契約に関する申告書（日系派遣企業用） ※PDF
- (7) AOTS が定める新型コロナウイルスの防疫事項遵守に関する誓約書 ※PDF
※上記(1)(3)、(4)～(7)の書類は、本人が署名の上ご提出ください。内容に同意いただけない場合、または未提出の場合、コースへの参加が認められません。
- (8) 勤務先概要を紹介する資料 ※PDF
- (9) 顔写真データ（データタイトルに氏名を入力してください） ※JPEG または PDF
- (10) パスポートコピー ※PDF
※パスポートをお持ちでない場合は、自動車免許証コピーや ID カードコピー等（公的機関により発行されたもので、写真があり、ローマ字で氏名、生年月日が記載されているもの）を提出してください。
- (11) 事前研修レポート ※WORD

注意：

※他にも必要に応じて書類を求められることがあります。

※上記 AOTS 所定様式については AOTS 事業統括部（14. お問合せご参照）にお問合せください。

提出された応募書類は、2023年1月26日（木）の審査委員会で審査されます。審査結果は審査委員会終了後、AOTS より連絡いたします。

注：応募者が締切日時点で20名に満たない場合、本コースを中止または延期する場合があります。

6. 研修コースの概要：

■ 目的

本コースは、以下のことを目的として設計されています。

(1) ひとつのプロジェクトを計画し管理するためのプロジェクトマネジメントの知識体系と基礎的な適用スキルを習得すること

(2) ソフトウェア開発、革新性の高い製品・サービスの開発、段階的な企業革新など、モデルやプロトタイプが存在せず、何を作るかを最初から定義することが難しい場合に適したプロジェクトマネジメントの新しいバリエーションである「アジャイルプロジェクトマネジメント手法」に精通すること

(3) ビジネス競争力、さまざまなセクターのイノベーション、グローバル競争における持続可能性のためにますます重要な役割を獲得している高度なレベルでのプログラムマネジメントの概念を学ぶこと

(4) 現代の経済・産業・社会におけるプロジェクトマネージャとプログラムマネージャの役割をより深く理解すること

参加者は、効果的な目標設定、効率的なプロジェクト計画・管理、品質管理、組織的な資源管理などを通じてビジネス目標を達成するという直接的な目標から、グリーンエコノミー、DX、日本政府が提唱する Society 5.0 などの新しい経済モデルの要素をパッケージ化するビジネスノウハウを形成するための高度な目標まで、これらの目標を達成するためにプロジェクトマネジメントやプログラムマネジメントをどのように適用するかを学ぶことができます。

■ 期間

2023年3月1日（水）～3月13日（月）（9日間）

■ 内容

【プレ・ステップ】 申込書による事前学習

「事前研修レポート」に記載されている質問と事前調査のガイドラインに回答します。これらの内容は研修中のディスカッションやグループワークショップで活用されることになっています。事前学習には、会社概要のほか、参加者が所属する企業の業務上の特徴やプロジェクトマネジメント環境などが含まれます。参加者は、裏付けとなる資料や情報を持参してください。

【ステップ 1：アジャイルプロジェクトマネジメントを含むプロジェクトマネジメント】

プロジェクトマネジメントの用語、知識分野、統合フレームワーク（手法）を学び、プロジェクトを実行・管理する上での共通言語となる基本的な応用力を身につけます。その際、企業や業界の目標に対して、プロジェクトマネジメントの知識やスキルをどのように適用していくかの手法を徐々に形成していきます。

【ステップ 2：プログラムマネジメント】

プログラムの構想、策定、設計・構造化、実施管理、革新的な製品サービスのための方法論であるプログラムマネジメントの概念を学びます。プログラムマネジメントは組織戦略を実現する手段であり、革新的な仕組みづくりや製品の高付加価値化に焦点を当てるためのプロジェクトの集合体として形成されるものです。このコンセプトを用いて、参加者は、新しい事業領域への事業拡大、企業・産業・社会の持続可能性の向上、グリーン産業やそれを超える産業、省エネ・新エネルギー開発の促進、グリーン建設・グリーンインフラの革新モデルなど、新しいビジネスモデルの構築に向けたプログラムに挑戦することになります。

【ステップ 3：まとめ。P2M の総合的な専門知識と応用力の形成】

本コースでは、PBL（Project-based Learning）方式により、ほとんどの講義で実施される実践的な演習、それぞれ半日で実施される 2 つ企業事例、および各グループのテーマ別取り組みに基づく 1 日の総合的なグループワークショップを通じて、研修で学んだことを確実に理解することができます。そして参加者は、プログラム&プロジェクトマネジメントを実施する上で、自身の役割を認識できるようになります。

本研修プログラムは P2M[®] に基づきプログラム&プロジェクトマネジメントのシステムと方法を学ぶために設計されています。

参加者は本コースに参加することで、プロジェクトマネジメントの責任者、将来的にはイノベーションのためのプログラムマネージャーとしての自らの役割をより具体的にイメージすることができ、P2M がカバーする体系的な知識を習得することができます。本コースを修了した参加者は AOTS 修了証書を授与されるだけでなく、特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会より International P2M Practitioner (iP2M) 資格証明書を授与されます。

さらには、P2M をもとにしたプログラム&プロジェクトマネジメントを学び、実際の日本の企業の事例に触れることにより、参加者は、日本企業の取り組みを知り、知識を広げることができます。そうした知識は、帰国後の様々なビジネス環境において、日本企業との効果的・効率的なコミュニケーションを図るための基礎となります。

コースは通常午前 3 時間、午後 3 時間の講義からなります。日程表（予定）をご覧ください。

■ 使用言語

講義、ディスカッション、企業見学、演習、総合演習はすべて英語で行われます。1 つの演習のみ、翻訳付きで実施されます。コースで使用する資料と教材はすべて英語で作成されます。

■ コースディレクター

田中 弘 博士

Ph.D. (France), Dr.PM Hon. (Ukraine)

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)学術顧問・元理事長

Global Professor of Strategy、Project and Program Management

田中博士は 2009 年より AOTS 研修プログラム (PPTP/PHPP) のコースディレクターとして、プログラム&プロジェクトマネジメントを担当。日揮ホールディングス株式会社(石油・ガス、化学、ライフサイエンス、エネルギー転換、インフラストラクチャー分野で日本トップ、世界トップ5のエンジニアリング・建設会社)に42年間在籍。日本の「P2Mプログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」を所有する特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)の創設者であり、初代理事長を14年にわたり務めた。2002年から20年以上にわたり、フランス、ウクライナ、ロシア、セネガル、日本の計9つの大学院で、戦略、プロジェクト、プログラムマネジメントの教授を務めている。プロジェクトマネジメントの世界的なコミュニティにおいて最上級のリーダーであり、30カ国、168の世界/国際プロジェクトマネジメント会議で基調講演や招待講演を行っている。直近では、2021年9月に73カ国から1500人の代表者が集まるロシア主催のIPMA世界大会、2021年12月に50カ国から1000人の代表者が集まるインド主催の世界プロジェクトマネジメントフォーラム第3回で基調講演を行っている。また、政府(5カ国)、業界、プロジェクトマネジメント協会の賞を数十回受賞している。フランスの博士号(戦略、プロジェクト、プログラムマネジメント)、ウクライナの博士号(PM.Hon)を取得。ウクライナの名誉博士。日本語と英語(ビジネス言語)を話し、スペイン語、フランス語、ポルトガル語はプロジェクトマネジメントの教育に使用し、インドネシア語は日常会話程度。

■ 講師陣

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ) *に登録された講師が指導します。講師のうち2名はプロジェクトマネジメントの博士号を取得、6名全員がプロジェクトマネジメントの資格(米国または日本、もしくはその両方)を持っています。

*PMAJは、プロジェクトマネジメントの知識とスキルを発展・普及するために設立された非営利組織です。
(<http://www.pmaj.or.jp/>) 以下のような業務を主に行っています。

- プログラム&プロジェクトマネジメントの標準ガイドブック「企業イノベーションのためのプログラム&プロジェクトマネジメント(P2M®)」を発行・改訂。
- 国内外における官民・学界を通じたP2Mの推進。
- プログラム&プロジェクトマネジメントに関する教育・研修・セミナーの実施。
- P2Mに基づくPMプロフェッショナルの認定資格の運営。
- プログラムマネジメントおよびプロジェクトマネジメントの専門的能力および企業能力の向上を目的とした、組織的またはボランティア活動を行うプロジェクトマネジメント学会のプラットフォームの運営。
- プログラムマネジメント、プロジェクトマネジメント、その他マネジメントに関連する分野の研究・開発
- 他のプロジェクトマネジメント協会との協力、グローバルなプロジェクトマネジメントプラットフォーム(ISO委員会、パフォーマンスベース基準のためのグローバルアライアンス)への貢献など、プログラム&プロジェクトマネジメント界における国際協力。

■ 研修場所と宿泊施設(予定)

AOTS 東京研修センター(TKC) <http://www.aots.jp/jp/center/about/tkc.html>

120-8534 東京都足立区千住東1丁目30-1

電話: 03-3888-8231(受付) ファックス: 03-3888-0763

プログラム&プロジェクトマネジメント研修コース [PPTP] 日程

2023年3月1日～3月13日

AOTS 東京研修センター (予定)

月/日	午前	午後
研修開始前日	来日	
3月1日 (水)	オリエンテーション/開講式	【コースディレクターによる導入講義】 ・21世紀の競争力、イノベーション、サステナビリティのためのダイナミックなマネジメントパラダイム&メソドロジーとしてのプログラム&プロジェクトマネジメント ・日本のP2Mガイドブック概要
3月2日 (木)	【講義・演習】 プロジェクトマネジメント総論(1) プロジェクト開発と投資決定前(プレ・プロジェクト)計画	【講義・演習】 プロジェクトマネジメント総論(1)続き プロジェクト開発と投資決定前(プレ・プロジェクト)計画
3月3日 (金)	【講義・演習】 プロジェクトマネジメント総論(2) アジャイル・プロジェクトマネジメントー革新性の高い新製品・新サービスの開発計画・管理	【講義・演習】 プロジェクトマネジメント総論(2)続き アジャイル・プロジェクトマネジメントー革新性の高い新製品・新サービスの開発計画・管理
3月4日 (土)	休日	
3月5日 (日)	休日	
3月6日 (月)	【講義・演習】 プロジェクトマネジメント総論(3) プロジェクトのスコープ定義とスコープ管理	【講義・演習】 プロジェクトマネジメント総論(4) プロジェクトスケジュール設定と進捗管理
3月7日 (火)	【講義・演習】 プロジェクトマネジメント総論(5) プロジェクトのコストマネジメント	【講義・演習】 プロジェクトマネジメント総論(6) プロジェクトのリスクマネジメント
3月8日 (水)	【事例研究 I】 サステナビリティ・プロジェクトの事例と社会貢献 プロジェクトに関する小演習	【企業見学】 訪問と討議 -都市創造、未来社会モデル、環境親和性、資産価値向上等のソリューションについて 株式会社竹中工務店 竹中技術研究所
3月9日 (木)	【講義】 プログラムマネジメント(1) 事業の高付加価値化・イノベーションのためのメカニズム構築に資する計画化・運営のためのプログラムマネジメント	【事例研究 II】 プログラムマネジメント (2) 企業事例 食品企業における P2M を活用したアジャイル経営事例
3月10日 (金)	【総合演習】 プログラム&プロジェクトマネジメント総合演習 グループ毎にプロジェクトテーマの計画と実施の要件についての発表。 講師による採点とフィードバック指導	
3月11日 (土)	休日	
3月12日 (日)	休日	
研修 終了日	【講義】 プロジェクトマネジメント総論(7) プロジェクト資源マネジメント、組織マネジメント 【コース総括】 コースディレクターによる総括	【最終発表】 ・参加者による振り返りと自社へのP2M活用についての発表 修了式
	(帰国)	

注意：

- (1) 上記のスケジュールは、講師や協力企業の都合、その他のやむをえない事情のために変更されることがあります。
- (2) 夕食後グループ討論を行うことがあります。
- (3) 日曜は原則として休日ですが、必要に応じて講義の予定が組まれることがあります。

7. 到着日及び出発日について：

参加者は、原則として研修開始日の前日に日本に到着し、研修終了日の翌日に日本を出発することとします。

8. 経費：

<日本国内の法人からお申し込みの場合>

以下の試算例をご参照ください。

いずれの試算例も、コース開始前日来日・終了日翌日帰国 2週間（14日）コース成田空港・東京研修センター間移動の場合です。

【試算例1】中堅・中小企業の場合 補助率 2/3

コース開始前日来日・終了日翌日帰国 2週間（14日）コース成田空港・東京研修センター間移動の場合

(日本円)

研修費用	総額	補助額	分担金
1. 受入費	170,514	[2/3] 113,676	[1/3] 56,838
2. 研修実施費	516,000	348,000	168,000
合計	686,514	461,676	224,838

【試算例2】大企業（一般分野）の場合 補助率 1/3

コース開始前日来日・終了日翌日帰国 2週間（14日）コース成田空港・東京研修センター間移動の場合

(日本円)

研修費用	総額	補助額	分担金
1. 受入費	170,514	[1/3] 56,838	[2/3] 113,676
2. 研修実施費	516,000	302,000	214,000
合計	686,514	358,838	327,676

【試算例3】大企業（重点分野）の場合 補助率 1/2

コース開始前日来日・終了日翌日帰国 2週間（14日）コース成田空港・東京研修センター間移動の場合

(日本円)

研修費用	総額	補助額	分担金
1. 受入費	170,514	[1/2] 85,257	[1/2] 85,257
2. 研修実施費	516,000	318,000	198,000
合計	686,514	403,257	283,257

※受入費は下記受入費基準額一覧をもとに計算しております。そのほか、国内移動費（成田空港・東京研修センター間）および厚生費（管理研修期間中の海外旅行保険代）が含まれます。

※渡航費は補助対象外となります。

※研修コース参加後に現地研修をご希望の場合、経費については、AOTS研修・派遣業務部 研修業務グループ（14. お問い合わせご参照）にお問い合わせ願います。

※中堅企業とは資本金10億円未満の企業、中小企業とは中小企業基本法に規定する中小企業、一般企業とは中堅企業、中小企業以外の企業をいいます。但し、資本金又は出資金が10億円以上の法人に直接又は間接に100%の株式を保有される事業者は中堅・中小企業としません。

※重点分野とは大企業のみが対象で、通常1/3の国庫補助率を1/2に引き上げられる案件で以下のいずれかに該当するものをいいます。

- (1) 現地研修が、開発途上国・地域の産業発展に大きく寄与する技術協力と認められるもの（新法人や新工場の立ち上げや先進的な新製品・新サービスの立ち上げの対応等（サプライチェーンの多元化・強靭化）に大きく寄与する案件を含む）
- (2) 海外進出先の対象国・地域がアフリカであるもの

◎受入費基準額一覧

AOTS 研修センター 宿舎費・食費	来日日のみ	8,600 円/泊
	来日日以外	9,440 円/泊
研修旅行時	宿舎費	10,267 円/泊
	食費	2,620 円/泊
雑費		1,040 円/泊

※管理研修終了後、現地研修を実施することができます。

その場合、以下の現地研修費が補助対象となります。

現地研修費	AOTS 基準	備考
現地研修に必要な経費に充当 (現地研修期間中における研修用資材、研修生の交通費、受入企業の指導員の人件費などの諸経費に充当するもの)	大企業 3,360 円/日	・日額単価・暦日 ・研修生への支払い方法は現物提供
	中堅・中小企業 5,190 円/日	

<海外の法人からお申し込みの場合>

英語版募集要項(The Program Outline)をご参照下さい。下記 URL より該当コースの募集要項をダウンロードください。

<https://www.aots.jp/hrd/technology-transfer/management/course/>

9. 査証 (VISA) の取得について :

(1) 在留資格

日本で研修するために必要な在留資格は「研修」です。

(2) 査証の取得

参加者は、AOTS が発行する「GUARANTEE LETTER」等必要な申請書類をもって自身で在外日本国大使館/総領事館（以下「在外公館」とする）にて「研修」査証の申請、取得をしてください。ただし、申請書類が本省照会となり時間がかかる場合があるため時間に余裕をもって申請することを強くお勧めします。

(3) 注意事項

既に「短期滞在査証」、「短期数次査証」、「APEC・ビジネス・トラベルカード (ABTC)」等、「研修」以外の査証を取得している方、または査証免除国・地域からの参加者は、既存の査証が日本での研修コース参加という滞在資格に合致していることを事前に、必ず最寄りの在外公館にて事前確認してください。

1 0. 海外旅行保険の付保について

AOTS は、参加者に対し自国を出国した時から、自国に帰国するまでの期間を補償対象とした海外旅行保険を付保します。付保内容は傷病により医療機関で診療を受ける際の医療費と賠償責任・救済者費用で構成されています。別紙を参照の上、研修申込時に海外旅行保険付保に対する同意の意思確認のためサイン済みの同意書を提出してください。

1 1. AOTS が定める新型コロナウイルスの防疫事項遵守に関する誓約について:

参加者は当協会の研修への参加申し込みに当たり、参加者の来日前及び来日後の滞在期間中において、AOTS が定める遵守すべき防疫事項を確実にを行うこと、日本滞在中は新型コロナウイルスに感染しないように必要な対策を行うこと、研修に支障が出ないように最善の注意をすることを誓約する必要があります。参加者は、研修申込書内の同誓約書を確認の上、研修申込時に同意の意思確認のためサイン済みの同意書を提出してください。

1 2. 日本入国時の検疫措置について:

日本入国時の検疫措置は次の通りです。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/bordercontrol.html>

1) 有効なワクチン接種証明書がある場合

到着時検査、入国後待機とも不要です。

そのほか、入国にあたり質問票に記入する必要があります。

有効と認められるワクチンについては下記のリンクを参照ください。

有効なワクチン接種証明について：<https://www.mhlw.go.jp/content/000997373.pdf>

2) 有効なワクチン接種証明書がない場合

出国前 72 時間以内に検査を受け、医療機関等により発行された陰性の検査証明書を入国時に、検疫所へ提示してください。

そのほか、入国にあたり質問票に記入する必要があります。

有効な検査証明書があれば到着時検査、入国後待機とも不要です。

有効と認められる検査証明書については下記のリンクを参照ください。

出国前検査証明書について：<https://www.mhlw.go.jp/content/000825144.pdf>

※ファストトラックの推奨

検疫手続きを早く進めるため、ファストトラックの利用をお勧めします。

自身の接種証明や検査証明が有効かどうかも判別されるため、ぜひ利用ください。

ファストトラックについて：<https://www.hco.mhlw.go.jp/en/>

1 3. 個人情報の取扱いについて:

AOTS が取得する応募者の個人情報については以下のとおり取扱います。

(1) 個人情報の管理者： 一般財団法人海外産業人材育成協会 総務企画部長

連絡先： 総務企画部 総務・人事グループ

電話：03-3888-8211 E-mail: kojinjoho-cj@aots.jp

(2) 利用目的

ご提供いただいた個人情報は、参加者受入及び研修実施に関する事務手続きのために利用します。それ以外の利用目的または法令に基づく要請の範囲を超えた利用はいたしません。

尚 AOTS の個人情報保護方針は、<http://www.aots.jp/jp/policy/privacy.html> をご覧ください。

14. お問い合わせ：

一般財団法人 海外産業人材育成協会

日本国内の法人を通じてのお申込の場合 kigyo-inquiry-az@aots.jp

企業連携部 研修・派遣業務グループ

住所 〒120-8534 東京都足立区千住東1丁目30-1

電話：03-3888-8221

Fax：03-3888-8428

E-mail: kigyo-inquiry-az@aots.jp

海外の法人から直接のお申込の場合

事業統括部 海外協力グループ

住所 〒120-8534 東京都足立区千住東1丁目30-1

電話：03-3888-8256

Fax: 03-3888-8242

E-mail: shouhei-au@aots.jp

※各国の海外協力機関についての情報は事業統括部海外協力グループにお問合せください。

※本募集要項に書いてある要件は2022年11月1日時点の日本政府の水際対策に基づきます。日本政府の水際対策、療養解除条件の変更により、要件が変わる可能性があります。

PRE-TRAINING REPORT

- The Training Program on Program & Project Management - [PPTP]

Please fill in the following items **by using a personal computer or similar equipment** in English.

Handwriting should be avoided.

This document will be used as a reference material in 1) the screening process of applicants and 2) the group discussion and the presentation to be held during the program by sharing with lecturers and other participants. Therefore, the applicant is requested to fill in all of the items clearly and concretely.

***AOTS will not use this information for any other purposes other than an AOTS training program.**

1. Your name	
2. Name of your company/ organization	
3. Outline of your company/organization (Please give a brief description or outline of your company/organization.)	
4. Business outline, product lines/service, and size of business of your company	
5. Your position and name of your department (preferably by attaching an organizational chart indicating your position)	
6. Your duties in detail	

<p>7. Experience of participating in any project at your workplace</p> <p>(Project contents, project period, and your role)</p>	
<p>8. Project for which you are going to work after returning to your home country</p> <p>(Project contents, project period, and your role)</p>	
<p>9. Any management issues or trouble you had in managing a project you engaged in</p>	
<p>10. Your expectations for the program</p>	